

(別紙様式3)

令和5年3月31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 茨城県つくば市天王台一丁目1番1
管理機関名 国立大学法人筑波大学
代表者名 契約担当役財務担当副学長 奈良 哲
(公印省略)

令和4年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和4年4月13日（契約締結日）～令和5年3月31日
- 2 事業拠点校名 （幹事管理機関のため該当無し）
- 3 構想名 （幹事管理機関のため該当無し）
- 4 構想の概要 （幹事管理機関のため該当無し）
- 5 教育課程の特例の活用の有無 （幹事管理機関のため該当無し）
- 6 管理機関の取組・支援実績 （幹事管理機関のため該当無し）
- 7 研究開発の実績
(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和4年4月13日～令和5年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 本事業全体の情報共有及び成果普及のための研究協議会・フォーラム等の取組を主催・実施計画（文部科学省と共催）	連絡協議会開催準備		連絡協議会開催（7月1日）		連絡協議会の総括と全国高校生フォーラム開催に向けた準備		全国高校生フォーラム開催に向けた準備		全国高校生フォーラム開催（12月18日）		全国高校生フォーラムの総括と次年度への準備	
(2) 各拠点校等に共通する課題やニーズの把握及び解決方法の提案・実施計画（文部科学省と協働）	連絡協議会に向けた各校からのニーズの集約と情報提供準備		連絡協議会における各校からのニーズの集約と情報提供		全国高校生フォーラムに向けた各校からのニーズの集約と情報提供			全国高校生フォーラムの成果と提起された課題の集約		全国高校生フォーラムで提起された課題の集約及び課題解決方法の共有と提案		

(3) 本事業全体の成果等について、ホームページ等による公表（外国語を含む）計画（文部科学省と協働）	WWL 専用ホームページ等での普及	連絡協議会開催に向けての情報発信	連絡協議会の報告と情報発信 全国高校生フォーラム開催に向けての情報発信 ホームページでの WWL コンソーシアム構築支援事業の情報発信	全国高校生フォーラム開催の情報発信	全国高校生フォーラムの報告と情報発信
(4) 文部科学省が設置する WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における実施経過報告や連携等を通じた本事業の円滑な実施（文部科学省と協働）	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携による連絡協議会の円滑な実施準備	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との連携した連絡協議会開催	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における連絡協議会実施経過報告及び全国高校生フォーラムの円滑な実施準備	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関と連携した全国高校生フォーラム開催	WWL コンソーシアム構築支援事業地域 AL 拠点機関との間における全国高校生フォーラム実施経過報告及び地域 AL 拠点機関等含めた事業全体に関する集約・報告等

(2) 実績の説明

1. WWL コンソーシアム構築支援事業連絡協議会開催

7月1日、WWL 及び SGH（スーパーグローバルハイスクール）ネットワークの関係者が各校における研究の進捗状況や課題などについて情報共有を図ることを目的として、「令和4年度 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業及びスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク連絡協議会」（文部科学省・筑波大学主催）をオンラインで開催した。

午前の部は、筑波大学附属学校教育局長補佐による司会の下、WWL 企画評価会議座長による代表挨拶があり、その後、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付参事官補佐より WWL コンソーシアム構築支援事業に関する事務局説明及び施策説明が行われた。

続いて、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学と国立大学法人広島大学より、地域 AL（アドバンスト・ラーニング）拠点機関による取組説明が行われた。

その後、京都府立鳥羽高等学校、岡山県立岡山操山中学校・高等学校、中村学園女子高等学校の3校より、「国際会議実施に係るプロセスで苦労した点や工夫点について」を表題とした WWL 取組発表①を実施した。そして、これら発表に続き、同志社国際高等学校、愛媛大学附属高等学校、新潟県立三条高等学校の WWL カリキュラム開発拠点校3校及び4名の企画評価会議委員から、それぞれの取組に対するコメントがあり、上記3発表校がそれらコメントに回答する形での意見交換が実施され、午前の部が終了した。

午後の部は、筑波大学附属学校教育局特任助教による司会の下、北海学園札幌高等学校、名古屋大学教育学部附属中・高等学校、奈良県立国際高等学校の3校より「高大連携の取組に係るプロセスで苦労した点や工夫点について」を表題とした WWL 取組発表②を実施した。続く意見交換では、広島大学附属福山中・高等学校、宮崎県立宮崎大宮高等学校、京都先端科学大学附属高等学校の WWL カリキュラム開発拠点校3校と4名の企画評価会議委員から、それぞれの取組に対するコメントがあり、上記3発表校がそれらコメントに回答を行った。

続いて、名古屋国際中学校・高等学校、滋賀県立彦根東高等学校の2校より、WWL 取組発表③として「これからの取り組み内容」についての発表を実施した。そして、これら発表に続き、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、熊本県立熊本高等学校、愛知県立千種高等学校の WWL カリキュラム開発拠点校3校と3名の企画評価会議委員からそれぞれの取

組に対するコメントがあり、上記 2 発表校がそれらコメントに回答する形での意見交換が実施された。

その後、休憩を挟み、再び教育長補佐の司会により、東京都立南多摩中等教育学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校の 2 校から「自走に向けた取り組み内容」を表題とした WWL 取組発表④が実施され、さらに、SGH ネットワーク参加校である名城大学附属高等学校、甲南高等学校・中学校、岡山学芸館高等学校の 3 校より、「テーマ設定→課題研究→発表資料への落とし込みのプロセスでの苦労した点や工夫点について」を表題とした SGH 取組発表が実施された。続く意見交換では、富士見丘高等学校、長野県上田高等学校、長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校の WWL カリキュラム開発拠点校 4 校及び 2 名の企画評価会議委員よりそれぞれの取組に対するコメントがあり、上記 5 発表校がそれぞれの視点で回答を行った。

最後に、筑波大学副学長・理事・附属学校教育局教育長による閉会の挨拶があり、過去 2 年間の Covid-19 禍での取組の中で、新たな形態を取り入れつつ工夫して学びを前進させてきた各学校に敬意を表するとともに、今般課題となっている成果検証にも触れ、どのような物差しでどのように成果を測るかがイノベティブなグローバル人材育成の「意味」に直結する点が述べられ、すべての充実したプログラムを実施することができた。

2. WWL コンソーシアム構築支援事業全国高校生フォーラム開催

12 月 18 日、WWL コンソーシアム構築支援事業及び SGH ネットワーク参加校を対象に、事業に取り組んでいる高校生がオンラインにより一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決や提案等を話し合うとともに、英語でのプレゼンテーションを映像で発信した。

本フォーラムは、開会式、プレゼンテーション、生徒交流会（ディスカッション）、文部科学省施策説明、受賞校の発表、閉会式の構成（13:00-17:30）で行われた。

開会式では、前年度文部科学大臣賞を受賞した立命館宇治高等学校の生徒が総合司会となり、冒頭、WWL 企画評価会議座長による挨拶をいただき、全体説明等を行った。

プレゼンテーションと生徒交流会は、SDGs の 17 目標に関わる 2 つの大きなテーマ：「格差のない社会をめざして」、「持続可能な開発と自然環境」の下、10 の分科会に分かれて Zoom ミーティングで開催した。

プレゼンテーションでは、各校が事前に映像で提出したグローバルな社会課題の解決や提言等に関するプレゼンテーションの要約を英語で説明した後、審査委員の先生から講評をいただくとともに、質疑応答が行われた。

生徒交流会（ディスカッション）では、アドバイザーとなった筑波大学教員、ティーチングアシスタント（TA）となった筑波大学の学生に助言をいただきながら、種々のグローバルな社会課題を取り上げ、解決に向け高校生にできることは何か等、英語によるディスカッションを行った。本年度は、ブレイクアウトルームを活用した小グループでの生徒の司会進行による自由討議の時間も設け、より充実した交流の時間を持つことができた。

文部科学省施策説明では、高校生の留学を応援する「トビタテ！留学 Japan」に係る内容や支援体制について詳細な説明がされた。

続いて、優秀なプレゼンテーションを行った学校に贈られる各賞（文部科学大臣賞、審査委員長賞、審査委員長特別賞、生徒投票賞）の受賞校の発表が行われ、受賞校からそれぞれ喜びのコメント等があった。

- 文部科学大臣賞（1校）：渋谷教育学園渋谷高等学校
- 審査委員長賞（1校）：東京都立白鷗高等学校・附属中学校
- 審査委員長特別賞（2校）：高雄市立高雄高級中學（台湾）

Saint Pedro Poveda College (フィリピン)

- 生徒投票賞(4校) : 立命館宇治高等学校
創価高等学校
清教学園高等学校
愛媛県立松山東高等学校

また、幹事管理機関を代表して筑波大学副学長・理事・附属学校教育局教育長より講評があり、本年度も Covid-19 の感染防止対策からオンライン開催となったことを鑑み、ICT ベースの交流がますます盛んになる時代において、ICT スキルをさらに身に付け世界的視野で学んでいくことの重要性に触れ、各賞の受賞校の取組を称えとともに、全参加生徒が自信を持って次のステップに進んでいくよう、励ましのことばが述べられた。

最後に総評として、文部科学大臣政務官より、本フォーラムが、国内外の多数の高校生が一同に会し、日頃の成果を発表し、語り合い、学び合う貴重な機会となったことへの喜びが述べられ、さらに、「非連続的」と言えるほど急激に変化する社会において、持続可能な社会の創り手となるには何をすべきかを考え、主体的に課題研究に取り組み、将来、社会課題解決に積極的に関わることのできるグローバルリーダーとして活躍することを期待する旨のメッセージをいただき、盛会のうちに終了することができた。

8 目標の進捗状況、成果、評価

平成 26 年度から令和 2 年度までの SGH 事業において、本学の附属学校の 1 つである筑波大学附属高等学校が幹事校管理機関を務め、連絡協議会・全国高校生フォーラムの開催や SGH ホームページの開設・普及等、WWL 事業への円滑な移行のための事前準備や基盤形成の一助に本学は貢献してきた。

WWL の創設期である令和元年度は、SGH のみならず、地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)を含めた 3 事業での連絡協議会及び全国高校生フォーラムを開催し、事業の枠を超えた成果や取組等を普及・啓発する場の提供を進めた。

令和 2 年度から令和 4 年度は、COVID-19 による影響もあり、これまでのような国外関係者の来訪を前提とした連絡協議会や全国高校生フォーラムの開催ができないといった障害が生じたものの、事業におけるグローバル人材の育成を継続して取り組むため、オンラインでの開催を提案・実現することに成功した。

WWL 幹事管理機関としての 4 年間の取組は、WWL という 1 事業のみに留まらず、高等教育全体のグローバル人材の育成が進むような貢献や対応をしてきたといえる。

9 次年度以降の課題及び改善点

- ・令和 4 年度から WWL の新規枠組として、『個別最適な学習環境の構築に向けた研究開発事業』が開始となったことから、WWL カリキュラム開発拠点校や研究開発期間を終えた拠点校、SGH ネットワーク参加校との間での連携や WWL 事業全体の推進に資することができるかが課題の 1 つとなる。
- ・この課題は、文部科学省と協働の上、互いの取組発表について意見交換できる機会を連絡協議会や全国高校生フォーラムの場を設けることにより、関係機関の間での意思疎通が円滑に進むことで改善可能と考えられる。
- ・今後も文部科学省と連携の上、幹事管理機関としての役割を活かしつつ、より多くの有為なグローバル人材の育成に繋がる好事例を各校に共有する役割を果たしていきたいと考えている。

【担当者】

担当課	東京キャンパス事務部企画推進課	T E L	03-3942-6432
氏 名	齋藤 貴大	F A X	03-3942-6911
職 名	一般職員	E-mail	kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp

【別紙2】

「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」
「スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク」
令和4年度連絡協議会プログラム

（ 令和4年7月1日（金）10:30～12:00、13:15～16:00
オンライン開催 ）

※発表時間が前後する可能性があります。

■プログラム

午前の部（10:30～12:00）

司会：筑波大学

時間	内容	発表者・発言者（発表・発言順）
10:30-10:33	開会	文部科学省
10:33-10:36 (3分)	WWL 企画評価会議代表挨拶	萱島 信子 WWL コンソーシアム構築支援事業企画 評価会議座長（独立行政法人国際協力機 構 緒方貞子平和開発研究所顧問）
10:36-10:46 (10分)	WWL コンソーシアム構築支援事業に関する事 務局説明（事前質問に対する回答含む）と施策 説明	文部科学省初等中等教育局参事官（高等 学校担当）付
10:46-11:00 (14分)	地域 AL 拠点機関による取組説明 ☆7分×2 拠点	・国立大学法人東海国立大学機構名古屋 大学 ・国立大学法人広島大学
11:00-11:30 (30分)	WWL 取組発表①（令和2年度指定校） 表題：国際会議実施に係るプロセスで苦労 した点や工夫点について ☆10分×3 拠点	・京都府立鳥羽高等学校 ・岡山県立岡山操山中学校・高等学校 ・中村学園女子高等学校
11:30-11:55 (25分)	意見交換① 観点：WWL の取組発表①に対し、これまでの 経験を踏まえたアドバイス・コメントを 行う ☆進行の流れ 1. 3拠点より発表校へのコメント (2分×3 拠点) 2. 企画評価会議委員より発表校へのコメン ト（2分×4名） 3. 発表校より上記1及び2に係るコメント (2分×3 発表校) 4. 事前提出質問に関する回答（5分）	・同志社国際高等学校 ・愛媛大学附属高等学校 ・新潟県立三条高等学校 ・企画評価会議委員 ・「WWL 取組発表①」の発表校
11:55-12:00	午前の部 終了	

時間	内容	発表者・発言者（発表・発言順）
13:15-13:45 (30分)	WWL 取組発表②（令和3年度指定校） 表題：高大連携の取組に係るプロセスで苦労した点や工夫点について ☆10分×3拠点	・北海学園札幌高等学校 ・名古屋大学教育学部附属中・高等学校 ・奈良県立国際高等学校
13:45-14:10 (25分)	意見交換② 観点：WWL の取組発表②に対し、これまでの経験を踏まえたアドバイス・コメントを行う ☆進行の流れ 1. 3拠点より発表校へのコメント（2分×3拠点） 2. 企画評価会議委員より発表校へのコメント（2分×4名） 3. 発表校より上記1及び2に係るコメント（2分×3発表校） 4. 事前提出質問に関する回答（5分）	・広島大学附属福山中・高等学校 ・宮崎県立宮崎大宮高等学校 ・京都先端科学大学附属高等学校 ・企画評価会議委員 ・「WWL 取組発表②」の発表校
14:10-14:20 (10分)	WWL 取組発表③（令和4年度指定校） 表題：これからの取り組み内容 ☆5分×2拠点	・名古屋国際中学校・高等学校 ・滋賀県立彦根東高等学校
14:20-14:45 (25分)	意見交換③ 観点：WWL の取組発表③に対し、これまでの経験を踏まえたアドバイス・コメントを行う ☆進行の流れ 1. 3拠点より発表校へのコメント（3分×3拠点） 2. 企画評価会議委員より発表校へのコメント（2分×3名） 3. 発表校より上記1及び2に対するコメント（2分×2発表校） 4. 事前提出質問に関する回答（6分）	・大阪教育大学附属高等学校平野校舎 ・熊本県立熊本高等学校 ・愛知県立千種高等学校 ・企画評価会議委員 ・「WWL 取組発表③」の発表校
14:45-14:55 (10分)	休憩	
14:55-15:05 (10分)	WWL 取組発表④（令和元年度指定校かつ令和4年度カリキュラム開発拠点校） 表題：自走に向けた取り組み内容 ☆5分×2拠点	・東京都立南多摩中等教育学校 ・金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
15:05-15:20 (15分)	SGH 取組発表（SGH ネットワーク校） 表題：テーマ設定→課題研究→発表資料への落とし込みのプロセスでの苦労した点や工夫点について ☆5分×3拠点	・名城大学附属高等学校 ・甲南高等学校・中学校 ・岡山学芸館高等学校

<p>15:20-15:50 (30分)</p>	<p>意見交換④(WWL 取組発表④及び SGH 取組発表)</p> <p>観点:WWL 取組発表④及び SGH 取組発表に対し、これまでの経験を踏まえたアドバイス・コメントを行う</p> <p>☆進行の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4 拠点より発表校へのコメント (3分×4 拠点) 2. 企画評価会議委員よりコメント (2分×2名) 3. WWL 取組発表④及び SGH 取組発表校より上記 1 及び 2 に対するコメント (2分×5 発表校) 4. 事前質問に対する回答 (4分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見丘高等学校 ・長野県上田高等学校 ・長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 ・渋谷教育学園渋谷高等学校 ・企画評価会議委員 ・「WWL 取組発表④」及び「SGH 取組発表」の発表校
<p>15:50-15:55 (5分)</p>	<p>幹事管理機関挨拶</p>	<p>筑波大学副学長・附属学校教育局教育長 溝上 智恵子</p>
<p>15:55-16:00</p>	<p>閉会</p>	<p>文部科学省初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付</p>

■発表校および発表テーマ

1. 地域AL 拠点機関による取組説明

機関	発表テーマ
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学	WWL コンソーシアムでの取組
国立大学法人広島大学	広島大学 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業

2. WWL 取組発表① (令和2年度指定校)

表題：国際会議実施に係るプロセスで苦労した点や工夫点について

発表校	発表テーマ
京都府立鳥羽高等学校	「ネットワークづくりと高校生サミット実施上の課題」
岡山県立岡山操山中学校・高等学校	Well-being フォーラムから国際会議へ
中村学園女子高等学校	ハイブリット型国際会議の実践～コロナ下における「食のサミット」～

(意見交換での発言校：同志社国際高等学校、愛媛大学附属高等学校、新潟県立三条高等学校)

3. WWL 取組発表② (令和3年度指定校)

表題：高大連携の取組に係るプロセスで苦労した点や工夫点について

発表校	発表テーマ
北海学園札幌高等学校	Snow Crystal Project in HOKKAIDO における高大連携事業について
名古屋大学教育学部附属中・高等学校	AL-NET で取り組む高大接続事業
奈良県立国際高等学校	持続可能な社会の構築に向けた高大連携

(意見交換での発言校：広島大学附属福山中・高等学校、宮崎県立宮崎大宮高等学校、京都先端科学大学附属高等学校)

4. WWL 取組発表③ (令和4年度指定校)

表題：これからの取り組み内容

発表校	発表テーマ
名古屋国際中学校・高等学校	ニューノーマル時代の地域創生を加速する高校生グレーター・ナゴヤ・プロジェクト ～グローバル拠点都市と世界を繋ぐ～
滋賀県立彦根東高等学校	「湖の国」滋賀が創出する次代を担う変革型グローバル・リーダー育成プログラム

(意見交換での発言校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、熊本県立熊本高等学校、愛知県立千種高等学校)

5. WWL 取組発表④ (令和元年度指定校かつ令和4年度カリキュラム開発拠点校)

表題：自走に向けた取り組み内容

発表校	発表テーマ
東京都立南多摩中等教育学校	持続可能な教育活動を目指して～コンソーシアムを活用した探究活動の深まり～
金沢大学人間社会学域学校教育学類 附属高等学校	WWL 事業の成果と課題

(意見交換での発言校：富士見丘高等学校、長野県上田高等学校、長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校)

6. SGH 取組発表 (SGH ネットワーク校)

表題：テーマ設定→課題研究→発表資料への落とし込みのプロセスでの苦労した点や工夫点について

発表校	発表テーマ
名城大学附属高等学校	繰り返す課題探究～視座・視点・視野の往還と一般化～
甲南高等学校・中学校	多様な人々の協力を得て実施した震災学習 (阪神淡路大震災体験者や経済産業省の方々)
岡山学芸館高等学校	多様な生徒それぞれに個別最適した SGH カリキュラムへの改定と自走する体制整備への挑戦～6 科コース 1300 人全校実施体制への取り組み～

(意見交換での発言校：富士見丘高等学校、長野県上田高等学校、長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校)

WWLコンソーシアム構築支援事業
 カリキュラム開発拠点校管理機関
 地域AL拠点機関
 SGHネットワーク参加校管理機関

御中

(WWL幹事管理機関)

筑波大学附属学校教育局
 東京キャンパス事務部企画推進課

WWLコンソーシアム構築支援事業
 スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク
 令和4年度連絡協議会の参加登録等について

日頃より、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（以下、「WWL」）およびスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク（以下、「SGHネットワーク」）にご協力いただき、ありがとうございます。

標記連絡協議会の開催については、令和4年5月9日付け事務連絡により、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付から通知されたところですが、幹事管理機関である筑波大学が参加者の取りまとめ等を行います。

つきましては、下記の要領に基づき、参加登録をお願いいたします。また、この度任意参加となりますWWL令和元年度カリキュラム開発拠点校およびSGHネットワーク参加校にて不参加の場合は、本件担当 (kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp) までご連絡をお願いいたします。

記

1. 開催日時

令和4年7月1日（金）10:30～12:00、13:15～16:00

※令和4年5月9日付事務連絡と開催時間が異なっているのご留意ください。

2. 開催形式

オンライン（Zoomウェビナー）

3. 参加対象

内訳 ^{※1}		対象者	最大アカウント数	参加（必須／任意）の別
WWLカリキュラム開発拠点校 （カリキュラム開発拠点校における研究開発期間を終えた拠点校を含む）	令和元年度指定	管理機関、拠点校、ALネットワークカリキュラムアドバイザー等	3 ^{※2}	令和4年度継続校：必須 上記以外の拠点校：任意
	令和2年度指定			必須
	令和3年度指定			
	令和4年度指定			
WWL地域AL拠点機関		地域AL拠点機関関係者等		必須
SGHネットワーク参加校		管理職、管理機関、参加校関係者等	2 ^{※3}	任意

- ※1： 参加対象校については、別紙1「WWL拠点校とSGHネットワーク参加校一覧」をご覧ください。
- ※2： ALネットワークをとりまとめる拠点校および管理機関の出席を優先のうえ、人選してください。
- ※3： SGHネットワークにも参加しているWWLカリキュラム開発拠点校は、「WWLカリキュラム開発拠点校」として登録してください。重複しての参加登録はできません。

4. プログラムと発表校および発表テーマ

別紙2『WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業』『スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク』令和4年度連絡協議会プログラム』をご参照ください。

5. 参加登録方法

別紙3「令和4年度連絡協議会参加登録について」をご確認のうえ、参加者を取りまとめ、代表者が以下フォームより参加登録ください。

【参加登録フォーム（Google フォーム）】

- WWL拠点校関係者 <https://forms.gle/qzsuwzQgzPDE3ag29>
- WWL地域AL拠点機関関係者 <https://forms.gle/3fkBPtyrZysQYLby5>
- SGHネットワーク参加校関係者 <https://forms.gle/rfZz7VafUE3a9FQM8>

【参加登録期限】

令和4年6月13日（月）15：00 厳守

6. 発表校の提出物

発表校におかれましては、別紙4「発表校における発表資料データの提出方法について」記載の要領にて発表資料データをご提出ください。なお、発表資料や当日プログラム等については、WWL専用ホームページ (<https://b-wwl.jp/>) にて連絡協議会開催前に公開予定です。公開日は後日参加者に電子メールでご案内いたします。

7. 注意事項とお願い

- 本事務連絡は、各管理機関のみにお送りしています。各管理機関から各拠点校および各参加校にご案内ください。
- 本件に関するお問合せ・質問等は、原則電子メールにてご連絡いただきますようお願いいたします。
- 連絡協議会当日の録音・録画はご遠慮ください。

<本件担当>

筑波大学 東京キャンパス事務部 企画推進課
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

Tel: 03-3942-6575/6275/6432

担当: 富樫、佐藤、齋藤、高田、山村、吉田

Mail: kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp

2022.

12/18 **SUN**

13:00~17:30 (9時~4時)

ONLINE Event

Program

[MC] High School Students

- 1) Opening Ceremony
- 2) Presentation
- 3) Discussion
- 4) Awards & Closing Ceremony

Send OUR messages
to the world!



**Worldwide Learning
Consortium**

WWL



WWLコンソーシアム
構築支援事業

**Super Global
High School Network**

SGH



スーパーグローバル
ハイスクールネットワーク

ALL JAPAN HIGH SCHOOL FORUM 2022

— 全国高校生フォーラム —

詳細はこちら

<https://sgh.b-wwl.jp/2022forum/>

お問い合わせ先

kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp
sgh-kanjiko@un.tsukuba.ac.jp



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



筑波大学
University of Tsukuba

共催：文部科学省・筑波大学（WWL 幹事管理機関）

事 務 連 絡
令和4年9月30日

WWLコンソーシアム構築支援事業
地域ALネットワーク実施機関
カリキュラム開発拠点校・拠点校管理機関 御中
SGHネットワーク参加校管理機関

(WWL幹事管理機関)
筑波大学附属学校教育局
東京キャンパス事務部企画推進課

「2022年度全国高校生フォーラム」参加申込等について

日頃より、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（以下、「WWL」）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク（以下、「SGHネットワーク」）にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、2022年度全国高校生フォーラムについては、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付改革推進係から令和4年8月29日付事務連絡で通知されたところですが、本フォーラムについては、WWL幹事管理機関である筑波大学が参加申込等の取りまとめを行います。

つきましては、開催概要【別紙1】および参加申込方法【別紙2】をご確認の上、10月14日（金）までに参加申込をお願いいたします。

なお、WWLの各管理機関はカリキュラム開発拠点校、カリキュラム研究開発期間を終えた拠点校、共同実施校・連携校に対して、地域ALネットワークの各実施機関は地域ALネットワーク内においてイノベティブなグローバル人材育成を実施する高等学校に対して、SGHネットワーク参加校の各管理機関はSGHネットワーク参加校に対して周知いただくとともに、参加申込については、各管理機関および各実施機関（以下、各管理機関等）が取りまとめの上、行ってください。

- ※1 プレゼンテーションは、日頃の研究成果を生徒が英語で発表する様子を撮影した映像データ、発表で使用した資料（英語）、要約（日本語・英語）を提出いただき、事前に審査を行った上で、本フォーラム当日に講評・質疑応答を行う予定です。本フォーラム当日に参加できるのは、プレゼンテーションの資料等を事前に提出している学校のみとなりますのでご注意ください。（プログラム（一部を除く）の当日視聴について、参加生徒以外（参加生徒所属学校の教員等、参加対象校でプレゼンテーション資料を提出しなかった学校の教員・生徒等、各管理機関等の事業関係者）の視聴も可能です。視聴方法については、別途ご連絡します。）

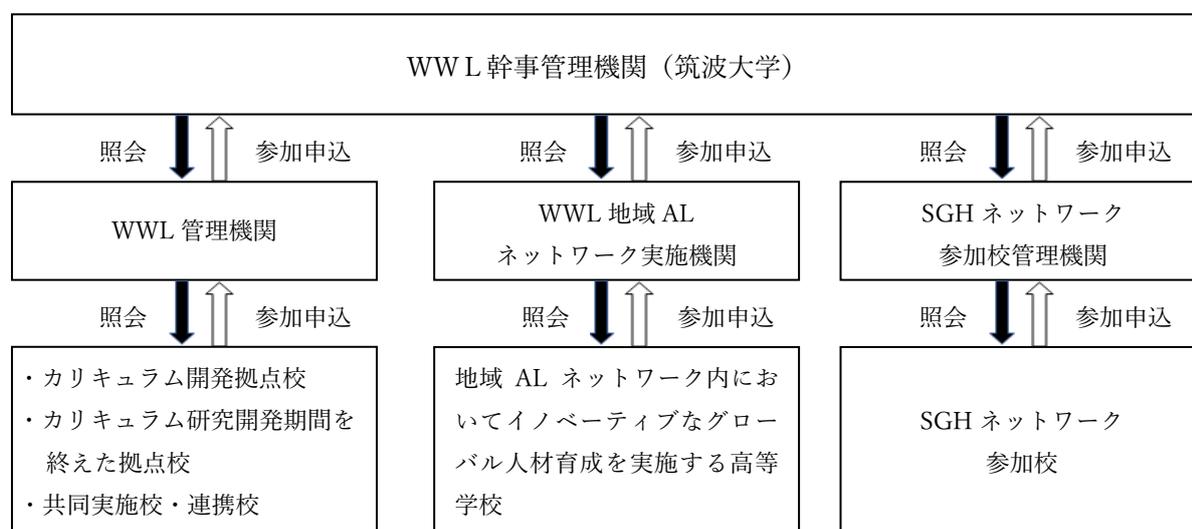
<注意事項とお願い>

- 本フォーラムへ不参加の場合も、参加申込フォームにて、その旨お知らせください。
- 本件に関するお問合せ・ご質問等は、原則電子メールにてご連絡いただきますようお願いいたします。WWL共同実施校・連携校、地域ALネットワーク内においてイノベティブなグローバル人材育成を実施する高等学校及びSGHネットワーク参加校からのご質問は、各管理機関等をとおしてお

問い合わせください。

- アジア高校生架け橋プロジェクトで来日中の留学生で本フォーラムに参加を希望する生徒は、プレゼンテーションの映像データ等の事前提出がなくても、当日オンラインで参加することが可能です。参加希望生徒がいる場合は、学校名、参加予定人数、出身国を10月28日（金）までに、各管理機関等から以下の本件担当までメールにてお知らせください。
- 各管理機関・各校の教員などで、生徒が英語で行うプレゼンテーションの審査員としてご協力をいただける場合は、10月28日（金）までに、各管理機関等から以下の本件担当までメールでお知らせください（事前提出された発表動画・発表資料・要約をもとに、開催日以前に審査をしていただく予定です）。審査の詳細については、別途、文部科学省よりお知らせいたします。
- 本フォーラム当日の様子は写真や映像として記録し、WWLおよびSGHネットワークの広報活動に使用場合があります。あらかじめご了承の上、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

<参加申込の流れ>



<添付資料一覧>

- 【別紙1】2022年度全国高校生フォーラム開催概要
- 【別紙2】2022年度全国高校生フォーラム参加申込方法
- 【別紙3】2022年度全国高校生フォーラム提出物作成の手引き
- 【別紙4】2022年度全国高校生フォーラム学校番号一覧
- 【様式1】要約作成フォーマット
- 【参考1】2022年度全国高校生フォーラム開催第1次ご案内（文部科学省）

<参考：過去の全国高校生フォーラム公式ホームページ>

- 2021年度 <https://sgh.b-wwl.jp/2021forum/>
- 2020年度 <https://sgh.b-wwl.jp/2020forum/>
- 2019年度 <https://sgh.b-wwl.jp/2019forum/>

<本件担当>

筑波大学 東京キャンパス事務部 企画推進課
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
Tel: 03-3942-6575/6275/6432
担当: 富樫、佐藤、齋藤、高田、山村、吉田
Mail: kikaku-kokusai@un.tsukuba.ac.jp

2022 年度全国高校生フォーラム 開催概要

1. 開催日時

令和 4 年 12 月 18 日（日）13:00～17:30（予定）

2. 開催方法

ウェブ会議システムによるオンライン開催

※1 本フォーラム当日のオンライン参加方法については、別途ご連絡します。

※2 プログラム（一部を除く）の当日視聴について、参加生徒以外（参加生徒所属学校の教員等、参加対象校でプレゼンテーション資料を提出しなかった学校の教員・生徒等、各管理機関等の事業関係者）の視聴も可能です。視聴方法については、別途ご連絡します。

3. 開催内容

文部科学省が実施している WWL および SGH ネットワークに参加する高校生がオンラインにより一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等をプレゼンテーションするとともに、生徒交流会を行います（原則英語。映像により配信します）。

4. 共催

文部科学省、筑波大学

5. 参加対象校

参加対象校		取りまとめ・参加申込	原則参加／任意参加の別
①	WWL カリキュラム開発拠点校	各管理機関	原則参加
②	カリキュラム研究開発期間を終えた WWL 拠点校		任意参加
③	WWL 共同実施校・連携校 （②の共同実施校・連携校含む）		任意参加
④	地域 AL ネットワーク内においてイノベティブなグローバル人材育成を実施する高等学校	各実施機関	任意参加
⑤	SGH ネットワーク参加校	各管理機関	任意参加

6. 参加申込方法

【別紙 2】「2022 年度全国高校生フォーラム参加申込方法」をご確認の上、10 月 14 日（金）までに参加申込フォームよりお申込みください。なお、参加申込については、各管理機関および各実施機関が取りまとめの上、行ってください。

7. 使用言語

原則英語

8. プログラム（予定）

8-1. 主なプログラム

- 1) 開会式
- 2) プレゼンテーション【分科会形式で実施】
- 3) ディスカッション（生徒交流会）【分科会形式で実施】
- 4) 表彰・閉会式

8-2. プレゼンテーションについて

本フォーラムの参加校には、日頃から取り組んでいるグローバルな社会課題の研究成果を発表していただきます。本年度のプレゼンテーションは、以下の手順で実施します。

- 1) 参加校は、次の3点のプレゼンテーション資料を作成し、提出【提出期限：11月14日（月）】
 - ① 発表で使用する資料（英語）
 - ② 発表動画（生徒が発表する様子を撮影した映像データ）（4分00秒以内、英語）
 - ③ 要約（日本語・英語）
- 2) 上記に基づき、審査員が各プレゼンテーションの審査を行う【11月下旬～12月上旬目途】
- 3) 本フォーラム開催当日、参加校はオンライン参加にて以下を行う【12月18日（日）】
 - ① プレゼンテーションの要約を英語で発表
 - ② 審査員・モデレータからの講評・質疑応答

なお、提出いただくプレゼンテーション資料の作成方法や期限等の詳細については、【別紙3】「2022年度全国高校生フォーラム 提出物作成の手引き」をご確認ください。また、審査・表彰の詳細については、別途、文部科学省よりお知らせします。

- ※1 本フォーラム当日に参加できるのは、プレゼンテーション資料を事前に提出している学校のみとなります。プログラム（一部を除く）の当日視聴について、参加生徒以外（参加生徒所属学校の教員等、参加対象校でプレゼンテーション資料を提出しなかった学校の教員・生徒等、各管理機関等の事業関係者）の視聴も可能です。
- ※2 プレゼンテーション資料は、1校あたり1グループ（最大4名で構成。4名を超える人数での研究であっても、4名を上限とします）のみ提出可能です。
- ※3 WWL 拠点校・共同実施校・連携校の合同グループ（最大4名で構成）でプレゼンテーション資料を提出することも可能です。その場合は、参加申込時に代表校名をお知らせください。ただし、合同グループの代表校は、別途単独のグループとしてプレゼンテーション資料を提出することはできません。
- ※4 同一の学校が複数の WWL 拠点校の連携校になっている場合、どちらの WWL 拠点校の連携校としてプレゼンテーション資料を提出するのかについて、WWL 管理機関同士で調整を行ってください。同一校から複数のプレゼンテーション資料を提出することはできません。
- ※5 「5. 参加対象校」のうち、③または④で SGH ネットワークにも参加している場合は、SGH ネットワーク参加校としてプレゼンテーション資料を提出してください。同一校から複数のプレゼンテーション資料を提出することはできません。
- ※6 WWL および SGH ネットワークの取組に関わっている生徒である限り、参加生徒の学年は問いません。
- ※7 事前にプレゼンテーション資料を提出いただいた本フォーラム参加校のうち、学校行事等の理由により当日参加ができない学校については、参加申込時にその旨お知らせください。
- ※8 参加を希望する校数によっては、本フォーラム当日の参加に必要なアカウントを生徒一人一人に付与できない可能性があります。
- ※9 「5. 参加対象校」のうち、②～⑤は本フォーラムへの参加は任意となり、参加を希望する校数によっては、参加制限を設ける場合があります。

8-3. ディスカッション（生徒交流会）について

本フォーラム当日は、高校生同士がテーマに沿ったディスカッションを英語で行う生徒交流会を実施します。多様な考え方にふれながら身近な地球規模の課題に対する学びを深めるとともに、他校の生徒とのつながりやネットワークを築ききっかけとなることをねらいとしています。

ディスカッションのテーマは、参加校決定後、事務局にてグループ分けを行い、グループが確定しましたらお知らせいたします。（11月下旬を予定）

- ※1 「5. 参加対象校」のうち、②～⑤は本フォーラムへの参加は任意となり、参加を希望する校数によっては、参加制限を設ける場合があります。

2022年度全国高校生フォーラム 生徒交流会(ディスカッション) 生徒用資料

(日程:12月18日(日)15:25~16:45)

(1)ねらい

- ・国際的な課題意識をもった生徒が集まり、SDGsの17目標に関するディスカッションを通して、他校の生徒や留学生とつながり、グローバルな視点を身に着ける。
- ・地球規模の課題について、グローバルな視点を活かし、当事者として地域や社会にどう貢献するかを考え議論することを通して、今後の実践的研究へのきっかけづくりをする。
- ・課題について、英語で説明し議論することをきっかけとして、国際社会において自己の意見を積極的に発信し議論する力を養う。

(2)ディスカッションテーマ

SDGsの17目標から下記2テーマを設定し、各テーマにつき5分科会に分ける。

【テーマA: 格差のない社会をめざして(⑩人や国の不平等をなくそう)】 (分科会 A-1~A-5)

(その他関連するSDGsの目標)

- ①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑥安全な水とトイレを世界中に、⑧働きがいも経済成長も

【テーマB: 持続可能な開発と自然環境(⑪住み続けられるまちづくりを)】 (分科会 B-1~B-5)

(その他関連するSDGsの目標)

- ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに、⑨産業と技術革新の基盤をつくろう、⑫つくる責任つかう責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを、⑮陸の豊かさも守ろう

(3)当日までに準備しておくこと

- ・自身の学校が参加する分科会のテーマについて、参加校の主な関連テーマを参照しながら、興味・関心のあるキーワードの発表や問題提起を英語を使ってできるように、資料調査等を行う。分科会で、積極的に発言できるよう準備する。
(キーワード例:Global Warming, Sea Level Rise) (問題提起例:I think global warming is the problem because some countries will disappear due to rising sea levels.)
- ・同じ分科会に参加する他校のプレゼンテーションをあらかじめ視聴しておく。

(4)内容

ラウンド1~3において発言および討論を行う。

【ラウンド1】問題提起(約20分)

- ① ディスカッションテーマについてのキーワード(英単語)の発表や問題提起を行う。アドバイザー教員を中心に、ラウンド2に向けて、議論すべき課題を定め共有する。
- ② ラウンド2では、ブレイクアウトルームに分かれるため、生徒の中から司会生徒(学校)と報告担当生徒(学校)を選出する。

【ラウンド2】ブレイクアウトルームでの意見交換(約30分)

ブレイクアウトルームに分かれて、ラウンド1で共有した内容から、「なぜ、グローバルな課題が生じるのか(原因の推測・分析)」、「どうすれば問題は解消されるのか(解決に向けた方法)」、「いま、高校生としてできることは何か?」を自由に討議する。

【ラウンド3】課題解決へ向かって(約25分)(自由討議→提言)

ラウンド2で議論した内容を報告する。それに対するアドバイザー教員のコメントを踏まえつつ、「私たちに何ができるか?」「将来、どのように地域や世界に貢献したいか?」を意見交換し、分

科会として提言できる内容があれば、それをまとめる。

(5) ディスカッションの進め方

所要時間: 80分(15:25~16:45)

参加校数: 各分科会 12校程度(アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生含む)

タイムスケジュール:

時刻	進め方		
15:20	アドバイザーとTAの入室 参加校をPC上での確認(出欠点呼なし)		
15:25	分科会内容の説明(約5分)		
	司会進行	TA	
	内容説明	アドバイザー TA	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー自己紹介(所属と研究分野を含めて) ・TA自己紹介(所属と興味・関心のある分野を含めて) ・生徒交流会の「(1)ねらい」の確認 ・分科会の進め方(3つのラウンド構成)
15:30	ラウンド1: 問題提起(約20分)		
	司会進行	TA	各学校の指名→生徒の発表→(繰り返す)
	生徒発表	参加生徒	ディスカッションテーマのキーワード(英単語)の発表や問題提起を行う。問題提起は、文章で述べる。
	アドバイス	アドバイザー	各校からの発言の補足・ラウンド2へ向けた助言
15:50	ラウンド2: ブレイクアウトルームでの意見交換(約30分)		
	司会進行	参加生徒	司会生徒・報告担当生徒の立候補
	意見交換	参加生徒	課題について、原因の推測・分析、解決や軽減の方法、高校生としてできること等を自由に討議する。
	アドバイス	アドバイザーorTA	各BRに分かれ、司会進行の補助、記録、意見交換への助言
16:20	ラウンド3: 課題解決へ向かって(約25分)		
	司会進行	TA	
	生徒発表	参加生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の報告(1班・2班それぞれの報告担当生徒) ・さらなる意見交換
	まとめ	アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> 高校生からの提言のまとめ アドバイザーからのコメント・提言とりまとめ 参加生徒の感想(時間があれば)
16:45	終了→全体会へ		

(6) ディスカッションのポイント

- ・活発な議論となるよう、積極的に発言する。同時に、全員が議論に参加できるように、英語で分かりやすくゆっくりと発言するように心がける。
- ・ラウンド2では、ブレイクアウトルームで議論する。司会進行は参加生徒自身で行い、アドバイザー(もしくはTA)は各班に同席し、適宜、議論を補助するとともに、記録を行う。

(7) その他

- ・アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生も、他の生徒と同じように、自身の経験や関心にもとづきながら、積極的に発言する。
- ・視聴者枠として、学校外の関係者が視聴している。